



▲写真 S-012

かみくだる
上下留のサザンカ

民家の横にあり、花付きは見事である。(写真・Web 画像)



▲写真 S-013

けんしょうじ
枯死・見昌寺のサザンカ

寺の前庭にあった。カエデの巨木の紅葉と(左)、淡紅色のサザンカの花の競演は見事であった。1991年撮影。



▲写真 S-014

しせんどう
倒木・詩仙堂のサザンカ

庭園にあった樹齢350年と言われていた巨木で、1.5m程で何本かに分岐。花は白色。(写真・Web 画像)

11-C チャノキ(茶の木)の巨木

ツバキ科ツバキ属
Camellia sinensis

チャノキは中国南西部原産で、日本には建久2年(1191)に僧栄西が中国から持ち帰り、緑茶用に各地で栽培されている。その原木は失われてしまったが、その後改良された品種の原木が残されている。ちなみに、中国の雲南省には世界最大といわれるチャノキがある。幹周は不明だが、樹高10.6m、樹齢3200年というもので、現在吾々が認識しているチャノキとは全く別次元の巨木である。

(右写真・Web 画像)



■チャノキの巨木評価基準

- A 株周おおむね1m以上、もしくは樹冠面積80㎡以上の巨木、又はチャノキの品種原木。
- B 株周おおむね0.6~1m、もしくは樹冠面積50~80㎡のチャノキの巨木。
- C B評価以下のチャノキの巨木。

■主なチャノキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	藤枝の大茶樹 写真 C-001	樹冠面積 80㎡	4m	静岡県藤枝市瀬戸ノ谷	なし
A	嬉野の大チャノキ 写真 C-002	株立ち 0.3m×30本	不明	佐賀県嬉野市嬉野町不動山	国
A	「やぶきた」原樹 写真 C-003	不明	1.9m	静岡県静岡市駿河区谷田24	県
A	日本一の大茶樹(弟株) 写真 C-004	株周 M1.1m(0.2m 2016)	4m	鹿児島県霧島市牧園町宿窪田2647	なし
A	大茶樹公園の大茶樹(最大株) 写真 C-005	株周 M2.15m(0.2m 2016)	4m	鹿児島県霧島市牧園町持松椽原	市
A	大茶樹公園の大茶樹(中央株) 写真 C-006	株周 M1.49m(0.2m 2016)	4m	鹿児島県霧島市牧園町持松椽原	市
B	久留氏宅の大茶樹 写真 C-007	不明	不明	鹿児島県霧島市牧園町	なし
B	真方の大茶樹 写真 C-008	不明	不明	鹿児島県霧島市牧園町持松真方	なし
枯死	日本一の大茶樹(初代) 写真 C-009	南北 9.6m 東西 7.5m	4.5m	鹿児島県霧島市牧園町持松椽原	国



▲写真 C-001
ふじえだ だいちゃじゆ
藤枝の大茶樹

茶畑の一角に保護されている。香り高い優秀な品種で、1700年頃に瀬戸ノ谷の平口家の祖先が開発したと伝える。樹冠中心部に幹周10㍍程の幹が10本程立上がっている(下写真)。(上写真・Web画像)



▲写真 C-002
うれしの
嬉野の大チャノキ

茶畑の一角にあるもので、幹周0.3m程の幹が30本程立上がり、お椀を伏せたような大きな樹幹を形成している。最初に茶栽培が行なわれた佐賀県脊振村から慶安年間に種子を取寄せて植えたという。(写真・Web画像)



写真 C-003▶
げんじゆ
やぶきた原樹

1857年(安政4)に産まれた杉山彦三郎によって品種改良された品種。現在緑茶の7割を占める品種「やぶきた」のルーツであり、貴重な存在である。(写真・Web画像)



▲写真 C-004
だいちゃじゆ
日本一の大茶樹
(左・弟株 右・兄株)

霧島市牧園総合支所にあるもので、初代(写真・C-009)から大正初期に挿し木されたもの。樹齢約100年。三本あった内二本が生き残り、稼原から弟株が当地に移植された後、弱ってきた兄株を平成7年に移植した。弟株が大きく、根元で6分岐し(右写真)、主幹幹周38.4㍍(0.2m)。兄株の主幹幹周29.2㍍(0.2m)。(写真・霧島市役所)





▲写真 C-005・6

大茶樹公園の大茶樹(最大株)
大茶樹公園の大茶樹(中央株)

稼原にある大茶樹公園には5株の大茶樹が植えられている。その内、左の最大株と中央の大茶樹が特に大きい。最大株は数本の株立ちになり、主幹幹周 50.5 釐。中央株も株立ちである。(写真・霧島市役所)



▲最大株の巨大な主幹
◀大茶樹公園の最大株
▼大茶樹公園の中央株



▲写真 C-007

久留氏宅の大茶樹

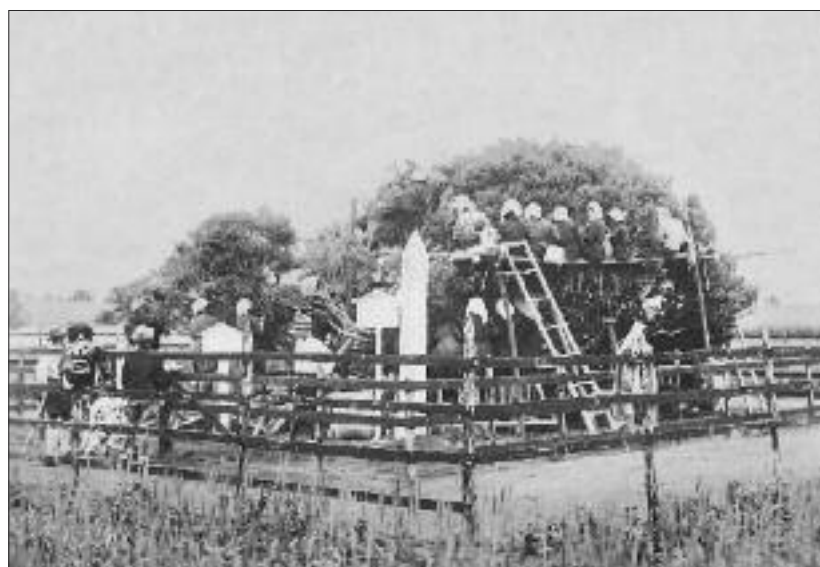
(写真・Web 画像)



▲写真 C-008

真方の大茶樹

(写真・Web 画像)



▲写真 C-009

枯死・日本一の大茶樹(初代)

樹齢 350 年以上で、1945 年に枯死した。当時の茶摘みの様子である。(写真・霧島市役所)

11-D ナツツバキ(夏椿)の巨木

ツバキ科ナツツバキ属
Stewartia pseudo-camellia

日本一のナツツバキ

うまたて
馬立のナツツバキ 評価 B

幹周 M2.65m(1.3m 2012) 樹高 14m

福島県西白河郡西郷村真船字馬立 天然記念物指定なし

ナツツバキは別名「シャラノキ」と呼ばれ、仏教ゆかりの木として寺の境内等に植えられている。初夏に白い椿のような花を開き、可憐な花は愛好者が多い。山野では尾根近くの乾いた斜面にあるが、巨樹として認識できるようなものは滅多にない。立山の美女平直下の登山道沿いに、幹周 3m の巨大なナツツバキがあった。しかし、2008 年に訪れた時にはすでに倒木していた。(参考写真なし)

その後ナツツバキの巨樹は確認されないでいたが、2010 年に福島県で幹周 2.8m というナツツバキが発見された。

2012 年の現地調査では幹周 2.65m、現時点で日本一のナツツバキと確認された。場所は意外な所で、国道から獨協学園施設への取付け道路横の谷に続く斜面。取付け道路に立てば、鹿子模様の独特の樹肌を持つ木はすぐにわかる。

地上 3m で 3 分岐するが、一本は破損し、二本が健在で、枝葉をよく伸ばしている。主幹は右に捩じれるように立上がっている。一帯は落葉樹の林で、谷まで 100m 以上はあるだろうと思われる急峻な斜面である。

ナツツバキは、ヒメシャラ同様、巨樹として認識される事がほとんどない。しかし、2012 年に伊豆の天城山中で、幹周 2.6m のヒメシャラを確認したように、どこかにまだ巨大なナツツバキが存在する予感がする。



11-E ヒメシャラ(姫娑羅)の巨木

ツバキ科ナツツバキ属
Stewartia monadelphica

■ヒメシャラの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 4m 以上の単幹ヒメシャラの巨木。
- B 幹周おおむね 3~4m の単幹ヒメシャラの巨木。
- C B 評価以下のヒメシャラの巨木。

■主なヒメシャラの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	明星岳のヒメシャラ 写真 H-001	3.9m	15m	鹿児島県熊毛郡屋久島町	なし
B	白谷雲水峡のヒメシャラ 写真 H-002	M3.5m(1.2m 2009)	不明	” ” 白谷雲水峡	”
B	白谷雲水峡のコブヒメシャラ 写真 H-003	不明	不明	” ” ”	”
B	宮之浦岳のヒメシャラ A 株 写真 H-004	不明	不明	” ” 宮之浦岳尾根	”
B	” B 株 写真 H-005	不明	不明	” ” ”	”
B	高塚小屋のヒメシャラ 写真 H-006	不明	不明	” ” 高塚小屋付近	”
B	天城のヒメシャラ 写真 H-007	M2.6m(1.3m 2012)	15m	静岡県伊豆市 天城山尾根	”



▲写真 H-001 日本一のヒメシヤラ

みょうじょうだけ
明星岳のヒメシヤラ

屋久島の明星岳山頂近くの斜面に立ち、コブが多い。現在知られているヒメシヤラでは最大である。

(写真・Web 画像)



▲写真 H-002

しらたにうんすいぎょう
白谷雲水峽のヒメシヤラ A 株

三本檜杉より 200m 下った所、3m で 3 分岐する。



▲写真 H-003

コブヒメシヤラ

白谷雲水峽の遊歩道沿いに立つ。



◀写真 H-004

みやのうらだけ
宮之浦岳のヒメシヤラ A

登山道沿いに立つ。(写真・Web 画像)

◀写真 H-005

みやのうらだけ
宮之浦岳のヒメシヤラ B

登山道沿いに立つ。

(写真・Web 画像)

▼写真 H-007

あまぎ
天城のヒメシヤラ

天城峠から登って、標高 900m の尾根に立つ。5m で 2 分岐する。主幹は凹凸が激しい。



◀写真 H-006

たかつかごや
高塚小屋のヒメシヤラ

縄文杉近くにある無人の小屋、その傍らに立つ。(写真・Web 画像)

11-F サカキ(榊)の巨木 ツバキ科サカキ属 Cleyera japonica

■サカキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3m 以上の単幹樹、同等評価のサカキの巨木。
- B 幹周おおむね 1.5~3m の単幹樹、同等評価のサカキの巨木。
- C B 評価以下のサカキの巨木。

■主なサカキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	栗原連理のサカキ 写真 S-001	M3.0m(分岐 0.3m 2006)	11m	岐阜県不破郡垂井町栗原	県
B	大羽山のサカキ 写真 S-002	1.7m(0.3m)	10m	山口県長門市俵山(大羽山)	市
B	長江神社の榊 写真 S-003	1.65m	12m	愛知県北設楽郡長江町横曾連 26	なし
B	川俣神社のサカキ 写真 S-004	1.54m	18.5m	三重県亀山市加太板屋 5465	市
B	久伊豆神社の大榊 写真 S-005	1.5m	13m	埼玉県さいたま市岩槻区宮町 2-6-55	県
C	三ツ堀加茂神社のサカキ 写真 S-006	1.4m	13m	群馬県桐生市境野町 3-1380	県
C	菅原神社のサカキ 写真 S-007	1.1m	9.6m	東京都町田市本町田 802	市
C	清水寺の「縁結の木」 写真 S-008	不明	不明	静岡県藤枝市原 6-1	なし
C	清水寺の榊の木 写真 S-009	不明	不明	岡山県久米郡久米南町上初	町



写真 S-001 日本一のサカキ

くりはられんり 栗原連理のサカキ

名神高速道路の養老サービスエリアの北方、栗原地区にある白山神社の前に車を止めて、山側に続く細い道を登る。案内標識が無く、目標は栗原九十九坊跡で、ちょっとした広場に石仏等が並ぶ一角がある。サカキはその跡よりさらに登った所に立つ。赤茶けた樹肌はまさにサカキであろうが、こんな化物みたいなサカキがあるものだろうか。根元近くから 2 分岐し、根元近くの最もくびれた部分を測定して 3.0m あることを確認した。上部に連理が 4ヶ所見られる。(下写真)





▲写真 S-002

大羽山のサカキ

小祠があり、金ノ口講の神木として祀られる。(写真・Web 画像)



▲写真 S-003

ながえ ながえ さかき
長江神社の榎

(写真・Web 画像)



▲写真 S-004

かわまた かわまた
川俣神社のサカキ

(写真・Web 画像)

写真 S-005▶

ひさいず ひさいず おおさかき
久伊豆神社の大榎

(写真・Web 画像)



▼写真 S-007

すがわら すがわら
菅原神社のサカキ

(写真・Web 画像)



▲写真 S-006

かも かも
加茂神社のサカキ

(写真・Web 画像)

▼写真 S-008

せいすいじ せいすいじ えんむすび えんむすび き
清水寺の「縁結の木」

根元で二本が融合し、縁結びの木とされる。(写真・Web 画像)

▼写真 S-009

せいすいじ せいすいじ さかき さかき
清水寺榎の木

(写真・Web 画像)

